主催：横浜市国際局、(公財)横浜市国際交流協会

令和2年度モデル地域事業報告会
多文化共生セミナー
「行政による地域日本語教育の推進—意義と実例」実施報告

「地域日本語教育って？」
　YOKEでは、地域日本語教室支援や関連団体とのネットワーク構築等を進めるため、モデル地域の区役所と連携しながら、区域での日本語学習支援事業を行っています。
　7月に市職員対象に行った多文化共生セミナーのなかで、2020年度のモデル地域である、磯子区、緑区での活動報告があり、約90名にご参加いただきました。

　第1部「地域日本語教育が目指すこと」では、横浜市に住む外国人の状況と市の取組、地域日本語教育の背景と現状について、YOKEと各区役所・他団体との連携について報告しました。第２部「地域日本語教育推進モデル地域での取組」では2020年度モデル地域の磯子区、緑区から活動報告があり、それぞれの区の課題や取組が紹介されました。このセミナーの副題 「こんにちは！から始める多文化共生のまちづくり」が実感されたのではないでしょうか。

　横浜市では外国人住民に対して様々な取組が行われていますが、今後もこのように事例共有をし、それぞれの事業に生かしていければと思います。

オンラインと会場同時開催の様子

参加者の声

●区、YOKEと地域の1年にわたる活動を詳細に聴くことができ、連携事業について具体的なイメージが持てた。

●統計データから近年の市内外国人増加や在住者の困りごとを知り、今後の事業や政策を考えていく上で参考になった。

●業務や職場が違えば、互いの仕事が見えづらいと感じているので、今後もこのようなセミナーを継続的に開催し事例共有をしてほしい。

テーマ
「地域日本語教育が目指すこと」
「地域日本語教育推進モデル地域での取組」

報告者
嶽肩志江 氏　横浜国立大学非常勤講師
地域日本語教育の総合的な体制作り推進事業
プログラムアドバイザー
磯子区地域振興課
緑区地域振興課
横浜市国際局政策総務課
横浜市国際交流協会（YOKE）

日時
2021年7月28日（水）10:00-11:30

場所
オンライン（Zoom）
パシフィコ横浜　横浜国際協力センター6階
GALERIO

対象
横浜市職員

参加者数
88人

よこはま日本語学習支援センター
Yokohama NIHONGO Support Center
https://yokohama-nihongo.com
運営：公益財団法人 横浜市国際交流協会（YOKE）

地域日本語教育に関わる方や関心のある方
日本語学習をしたい方

「知りたい・やってみたい・つながりたい」をサポートします！

©2021 Yokohama Association for International Communication and exchanges(YOKE)

2021(令和3)年度 事業報告

令和2年度モデル地域事業報告会
多文化共生セミナー「行政による地域日本語教育の推進—意義と実例」　各報告から

＜基調報告＞

横浜市国際局

「横浜市における外国人住民の状況と多文化共生の取り組み」

市在住外国人全体の人口推移、国籍別・区別・年齢別人口データの紹介、外国人住民の意識調査（令和元年度実施）において「在住外国人の3割が『日本語の不自由さ』により生活で困り感を抱えている」との結果が報告されました。その他、区役所窓口多言語対応、外国人震災情報センター設置、外国人に向けた広報・情報発信の状況等、市の支援体制や取組について紹介しました。「外国人の方が来られた場合はどんな対応がよいか」、ご自身の業務について改めて考えられた方も多かったようです。

嶽肩志江氏

「地域日本語教育とは～背景と現状～」

日本語教育全体の中で地域日本語教育の重要度が増していること、また「生活者としての外国人」,「外国につながる児童生徒」の現状が紹介されました。「もしあなたが全く学習したことがない言語を使う外国で暮らすことになったら、どのような状況になるか？」という質問から、外国につながる人々が必要としていることは何かを参加者に問いかけました。参加者からは、「地域日本語教育が日本語だけでなく、つながりをつくる、生活のサポートができる等多面的に重要だと感じた」「日本語学習は多文化共生のツールであることが分かった」等の感想をいただきました。

横浜市国際交流協会（YOKE）

「横浜市国際交流協会における取組と連携支援」

横浜市には18区全てに地域日本語教室があり、加えて11区にある国際交流ラウンジ等が外国人住民の生活を支えています。YOKEからは、2020年に開設された「よこはま日本語学習支援センター」の初期日本語教室や、各関係機関や団体、地域日本語教室等との連携について報告しました。「連携」というキーワードから、「今後どのような連携を図っていくことが多文化共生に貢献できるのか、互いに探り合いながら取り組んでいきたい」との声があがりました。

＜活動報告＞

磯子区

「磯子区における取組「日本語ボランティア入門講座」を中心に」

磯子区では、「日本語教室ボランティアの高齢化」「オンライン教室を希望する外国人の増加」という２つの課題に対して、「ボランティアの地域参加促進、コロナ禍での活動参加」との目標を掲げて「磯子で日本語ボランティア講座」を開催しました。その結果、新規ボランティアの活動参加、コロナ禍での教室運営のノウハウ獲得等の成果が上げられました。YOKEとの連携についてもお話いただき、モデル地域事業について理解が深められたようです。

緑　区

「緑区における取組「集住地域における日本語教室」を中心に」

現在市内インド人の40％が緑区に在住しています。当初は生活習慣の違いなどにより、すれ違いが生じてしまうことも多々あったようです。区では外国人が地域に溶け込みやすくなることを狙いとし、日本語学習よりも交流に重点を置いた「やさしい日本語教室」を開催しました。「行政はマイナスをゼロにすること（日本語学習や日本文化紹介などの支援）で満足してしまっている」、それらの支援にとどまらず、「ゼロからプラスの支援（同じ地域住民としてまちづくりに参画するなど相互コミュニティの融合）を」という言葉が多くの方の印象に残ったようです。

よこはま日本語学習支援センター
Yokohama NIHONGO Support Center
https://yokohama-nihongo.com
運営：公益財団法人 横浜市国際交流協会（YOKE）

地域日本語教育に関わる方や関心のある方
日本語学習をしたい方

「知りたい・やってみたい・つながりたい」をサポートします！

横浜市委託事業／文化庁令和３年度「地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業」活用
©2021 Yokohama Association for International Communication and exchanges(YOKE)